

「学校関係者評価委員会」の開催について

本校においては、教育や業務の改善を図るために、自己点検・評価に取り組んでまいったところですが、2013年度からは、卒業生を含め本校に関係の深い業界団体、関係企業の方々を中心に「学校関係者評価委員会」を設置し、ご意見等をお聞きして、教育活動や学校運営に反映させております。

2022度の学校関係者評価委員会については、新型コロナウイルス感染防止対策を行いながら、2022年6月初旬に対面およびオンライン参加によるハイブリッド型会議として開催いたしました。

今後とも、学校関係者評価委員会の運営に対してご理解並びにご支援・ご協力をお願い申し上げます。

2023年 6月

学校法人Y I C学院

〈専〉Y I C京都工科自動車大学校

校長 村田 忠男

〈専〉YIC 京都工科自動車大学校 学校関係者評価委員会 議事録

会議名	2022年度 第1回学校関係者評価委員会
日時	2022年6月10日(金) 13:30~15:25
場所	〈専〉YIC 京都工科自動車大学校 1号館3階131教室
参加委員	一般社団法人 京都府自動車整備振興会 専務理事 徳田 悦生様、矢川 賢治様(オンライン参加) 京都トヨペット株式会社 ネットトヨタ京華株式会社 執行役員 統合管理副本部長 藤崎 修様 滋賀ダイノツ販売株式会社 代表取締役社長 鳥居 和浩様(代理根本 直輝様) いすゞ自動車近畿株式会社 人材開発室 教育部 部長 後藤 佳也様 株式会社レオタニモト サービス本部 部長 木下 敬明様 事務局：村田校長、飛田副校長、山根管理部長、澤総合支援室長、喜多教務課長 ワザバ-：課長補佐小林先生、課長補佐三宅先生、一級自動車整備学科科長村田先生、自動車整備科科長中澤先生、二輪自動車整備科住本先生、細田本部長(オンライン参加)、内部監査・IR戦略室 鳥井
議長	藤崎委員
記録者	内部監査 IR 戦略室：佐藤
配布資料	委員会名簿、2021年度〈専〉YIC 京都工科自動車大学校自己点検・評価結果、教育課程一覧、コース別カリキュラムマップ、カリキュラムマップ
進行	
1) 校長挨拶	<p>本日はご多忙の折、ご参集賜り誠にありがとうございます。</p> <p>まず、本校の最近の状況をご報告させていただきます。</p> <p>今年度の新入生の状況は従来自動車と二輪を別々で募集しておりましたが、自動車整備科に統合して定員50名でスタートしています。定員は早い段階で充足した。来年度は定員を増やして募集検討している。一級自動車整備科は近年、自動車整備士の資格体系が見直される影響か、15名募集のところ内部進学などもあり、一級に勢いがでてきたと感じている。国際自動車整備科はコロナ禍の影響で日本が鎖国状態になっており日本語教育機関への入学が激減しており、その影響下もあり36名と40名定員を割ることになった。本校の設置している日本語学院も徐々に増えてきた。日本語学校からは1年、2年勉強しないと専門学校へは進学できない。今期の募集も厳しい状況がづくづくと考えている。</p> <p>学校の設備の状況について実習場を5階までであった施設を4階までにコンパクトにし、5階のフロアに普通教室を配置した。実習室も教室も綺麗になりよい環境になった。</p> <p>授業については行事を再開し始めている。5月には全校の体育大会を宇治の太陽が丘にて開催しました。行事やレースイベントなどへの参加などもようやくコロナ前に戻しつつある状況。</p> <p>3年前から中国の山東省淄博市(しはく-し)の職業学院と提携を結び、2020年度秋から学生の受け入れをはじめ30名ほどの秋生に対し、2年の後期に新エネルギー技術専門教育プロジェクトを組んでスタートした。今の中国の入国規制の影響で教員を派遣することを予定していたが、コロナ禍でオンラインで実施することになった。</p> <p>専門学校の一般的な情報については、まず、私学全般について、先日、林真理子氏が日大の理事長のニュースにあるように大学の不祥事が原因かと思うが、学校法人のガバナンスのより強化する必要があるとして、今後、参議院選挙後の臨時国会に私立学校法の改正案が提出される見込み。主に変わるのが、評議員会の運用で機能を分化して評議員会に権限、役割を持たせるなど法改正がなされる見込み。大きな流れとして監査機能やガバナンス強化の動きが私学全体にある。本校もそうした動きに対応する必要がある。</p> <p>専門学校については職業実践専門課程の充実に向けてのガイドラインの報告がありました。中でも職業実践専門課程を中核として専門学校全般の教育の質を高めようという動きになっている。</p> <p>その中で職業実践の認定要件にもなっておりますが、学校関係者評価委員会については学校関係者評価の結果を踏まえて教育活動や学校運営の改善につなげていく職業実践専門課程の充実のため専門学校の特性を踏まえた職業実践専門課程における第三者評価に準じた評価の見直しが必要である。とあり、学校関係者評価を上手く回していく必要がある。</p> <p>本校としても委員会の運用に資料作りなど前向きに取り組みたいと考えております。</p>
2) 教職員紹介	各教職員挨拶
3) 関係者評価委員紹介	各委員挨拶
4) 定員数確認および委員長の選出	第7条第2項のとおり7名中、5名対面、1名オンラインにて出席、1名欠席で過半数以上で本委員会は成立する。議長は藤崎委員を推薦、全員に承認された。
5) 配布資料等確認	資料読み上げ
6) 議題	1. 2021年度の自己点検評価結果について

平成 30 年度の自己点検評価結果について（山根）

・自己点検評価結果の説明に先立ち、本校の概要に関して校長から説明があった。
 ・「2021 年度〈専〉YIC 京都工科自動車大専校 自己点検・評価結果」に基づき、教務科長の喜多より評価方法の見直し、および以下の項目についての喜多課長より説明があった。すべての報告は時間の都合上難しく、課題についてご報告させていただきます。

- ① 1. 教育理念・目標
- ② 2. 学校運営
- ③ 7. 学生の受入れ募集
- ④ 8. 教育の内部保証システム
- ⑤ 9. 財務
- ⑥ 10. 社会貢献・地域貢献
- ⑦ 11. 国際交流

2. 2021 年度の課題と重点項目について

評価項目	項目番号	課題と今後の改善
1. 教育理念・目標	1-2	<p>課題：1-2 学校の将来構想を描くために、業界の動向やニーズを調査しているかについては、エビデンスとしては 7 月開催予定の自動車整備関係企業連絡懇談会アンケート、合同企業説明会に参加いただく企業様へのアンケートなどと記載のとおり。点検整備の技術とコミュニケーションスキルの充実などのご意見をいただいた。特に本校では技術について 4 つのセクションに分けて行っている。点検や故障診断については総合実習に合わせて作業説明の授業をさらに強化して行っているが、直近のニーズは把握できているが、例えば 10～15 年後のニーズを把握する事が困難である。</p> <p>今後の改善方策 1-2 においては、直近に必要なニーズと近未来で必要と思われるニーズを明示し、意見を伺う。</p>
2. 学校運営	2-8 2-9	<p>2-8 専任教員の講義・実習負担は妥当であるかについて評価を 2 ややや不適切とした。</p> <p>2-9 教育内容の改善を図るため、教職員と非常勤講師等との定期的な情報交換を行っているかについて</p> <p>課題 2-9 はコロナ禍で年度初めに集まっていた機会のみとなっている。また、企業連携授業を担っていただいている企業様には担当教員を 2 人体制とした。</p> <p>2-8 においては、昨年よりハイブリッド型授業を行っている。対面とオンライン（中継）を同時に行うなどの対応をおこなっている。質問などは各教室の担当教員が行うように実施している。</p> <p>今後の改善方策としては 2-8 においては、学科・学年ごとの学科と実習のタイミングを根本から変更し改善につなげる。</p> <p>2-9 においては、オンラインの活用や個々の先生方と個別にコミュニケーションをとり情報交換に努める。</p>
3 教育活動	3-5	<p>3-5 の学習参加の前提としているスキルや要件などに不足がないかを確認するためのアンケートやヒアリングを行っているかについて</p> <p>課題 3-5 においては、リメディアル学習（入学前学習）による学習効果が明確でない。</p> <p>3-12 においては、シラバスの HP 上での公開が授業開始に間に合っていないとした。中でも入学前学習においては数年前より実施しているが、課題をより明確にするために進研アドの基礎力リサーチを今年度より導入した。後ほど今期の学習成果と授業アンケートについてご報告させていただきます。</p> <p>今後の改善方策 3-5 においては、リメディアル学習のベースとした WEB トレーニングを入学後に行い、トレーニング終了後に確認テストを実施する。確認テストの結果、苦手な科目について WEB トレーニングを実施してさらに学習し成績向上につなげる。基礎学力の向上を目指す。</p> <p>3-12 においては、理事会での承認時期も含めて再検討いただく。</p>

4 学修成果	4-5	<p>4-5 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか（卒業生の就職後の動向を出来るだけ把握し、卒業後にも就職その他の支援を行っているか）について 課題：4-5 卒業後の活躍、評価を把握しているか。 2022年度に関して、学び直し資格や国際自動車整備科の卒業生を対象に試験的にアンケートを実施した。YICで学んで良かったなど回答があった。</p> <p>体制の強化 4-11 卒業後のキャリア形成として卒業生のフォローをアンケートなどを検討中。 今後の改善方策 4-5・11においては、企業様との連携に加えて、卒業生へのWEBアンケートや同窓会を実施し直接的な把握に努める。卒業生の思いも集められるようにし、対応を検討する。</p>
5 学生支援	5-5 5-12	<p>5-5について評価を3に、5-12については評価2とした。 課題 5-5 卒業生への卒後教育等の支援体制はあるかにおいては、各企業様もしくは卒業生が母校に求める支援内容と実態の把握不足。 5-12 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているかにおいては、キャリア教育（ガイダンス：職業別理解）等を除いては連携授業等は実施していない。 今後の改善方策 5-5においては、企業様、卒業生のニーズを把握し、実態にあった支援を行うよう勤めて参ります学び直しの思いについても叶えられるように体制を検討。 5-12においては、コロナ禍で行えていないことが挙げられるが、高校や、日本語学校において出張授業が行えるように訪問し紹介している。高校へは夏以降を検討。WEBによるオープンキャンパスと同様に高校または自宅に居ながら体験・相談が行えることを周知する。</p>
6 教育環境	6-2 6-3	<p>6-2 実習室には実習に必要な設備が備わっているか、また、 6-3 各専門分野において基本的に用いる機材等を使用できる実習室が備わっているか、また必要な数の機材等を使用できるかについて 課題： 6-2・3においては、ASVの学習に必要な車両等が少ない。 6-4においては、図書スペースはあるが、所蔵書の内容が十分でない。 今後の改善方策 6-2・3においては、実習車両・教材の適宜入れ替え（3～4年毎）、及びリース車両等の導入と実施。 6-4においては、他分野との所蔵スペースを考慮しながら学生が閲覧可能な自動車分野の書籍を増やす。"とのバランスを取りながら対応したい。"とした。 2022年の取り組みとして一級自動車整備科上級学年に対し自動運転プログラムの授業を組み込んだ。学生の学習評価や授業アンケートを実施。結果、学生からもよい回答が多く、今後は下級生に向けた授業の取り組みを検討するとともに指導する教員側の技術の向上として全教員に知識量のアップとなる研修を行っている。また、カーボンニュートラルに対応する学びではタイヤを直接モーターで駆動する車両が増える傾向からエンジン実習の学びにモーターの授業を組み込んだ。 6-4については各メーカーからの教材や資格試験対策の問題集の充実を図った。</p>
7. 学生の受入れ募集	7-7	<p>7-7 学力の不足や障がいに関する特別なニーズを特定しているかについて評価を2とした。 課題 7-7においては、学習障害や適応障害の対応力等が不十分である。 今後の改善方策 7-7においては、対応方法や支援方法に関する研修会やセミナーに参加、教務内研修発表会にて共有する。 教務だけでなく、YIC京都校全体で支援する体制を構築することも必要。 教員が研修会に参加しておりますが、情報の共有など指導成果が不十分。</p>
8. 教育の内部保証システム	8-2 8-6	<p>8-2 適切な評価体制を有し、授業評価が実施されているか（教育内容やカリキュラムを評価しているかまたその評価方法、手段、スケジュールはどのようであるか） 8-6 教職員の仕事に対する意欲や満足度について聞き取りを行っているかについて 課題 8-2においては、教員による授業参観が困難な場合が多い。 8-6においては、年3回の面談に加えて、適宜相談できる場を設けているが十分とは言えない。 今後の改善方策 8-2においては、授業参観の期間中の時間割を調整し、多くの教員が授業を参観できる体制が必要。 8-6においては、オンラインにて個別に相談できる場を設け、機会を増やす。 教育内容やカリキュラムについては養成施設でもあるので厳しくしているが、授業参観2021年度は実施回数が少なかった。今年度については副校長の下、実施スケジュールが進んでいるが、工科は時期をずらして実施予定。8-6については適宜学校の指定する年3回以上実施するなどの対応を検討している。</p>

9. 財務		特になし	
10. 社会貢献・地域貢献	10-2	<p>10-2 学生のボランティア活動を奨励、支援しているかについて 課題 10-2 においては、教員と学生による「京都市みやこ土曜塾」等がコロナ禍により2020年度、2021年度は実施出来ていない。対象は中学生以下で2021年度は実施予定。学生はローテーションで参加予定を検討。 今後の改善方針 10-2 においては、ボランティア活動の持つ意義を教員・学生ともに理解し、コロナ禍でも実施可能な内容に絞り実施する。オープンキャンパスなど特定の学生に関して実施はできているが、全校で取り組める内容を検討している。</p>	
11. 国際交流	11-3	<p>11-3 留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているかについて 課題として11-3においては、オーバーワーク等に関する指導について対応が困難な面がある。 今後の改善方針としては11-3においては、教務課と支援課で連携をとり、学生の生活指導を繰り返し行う。 留学生は28時間/週以上のアルバイトをしてしまうなどは日々の朝礼にてルールは守るよう繰り返し指導している。先輩から間違った情報などについて従うなどする学生がいるが、尋ねられた際はきちんと日本の規則などを守ることに指導している。アルバイトしている学生についてはシフトの状況なども把握するよう面談を実施するなど生活面のサポートも行っている。</p>	
3. 2021年度の取り組みへの意見等			
評価項目	項目番号	ご意見・質問（委員）	回答（事務局）
11. 国際交流	11-3	<p>藤崎 自己評価について当社もしっかりやるべきかと勉強になった。 留学生の方への対応について、きめ細かく自己評価もされている。 大変残念ながら入社した卒業生が4月末で留学生の卒業生について退職したことを報告した。 会社として、本人の思いや現状把握コミュニケーションが足りていないと感じている。 留学生でエンジニアになった方をインターナショナルパートナーとしてエンジニアを1人を配置し、人事にもその担当者を配置した。さらに技術管理としてYICの卒業生を新卒採用のエンジニアの指導に増強した。特に留学生の社員については日常のコミュニケーションだけではなく、通常は先輩社員であるエンジニアリーダーからレポートが週2回あるが、特にプライベートな生活指導、悩み、コロナ感染のフォローなど人事に直接、メールやLINEで日々把握するよう体制を引いた。今回、2名入社した。2ヶ月間技術研修をして卒業検定を行った。従来は技術管理が行っていたが、現場のエンジニアリーダーが複数名で1人、同じ基準で実施して無事合格され、6月より配属先が決まり活躍している。 配属後も新たな業務の中、スピードについていけないや生活面でスリランカ、ベトナム苦情があっても我慢する傾向がある。優しく話を聞くやあるいは主張をはっきりと受け止める。日本風を押しつけない。 一番、京都弁と標準語の違いについて、エンジニアリーダーが親しみを込めて使った京都弁が怒っているように聞かれるということで、研修をスタートした。御校の自己評価だけではな</p>	<p>喜多 ありがとうございました。今後とも忌憚のないご意見をお願いいたします。</p>

		<p>く弊社でもその流れを引き継いで日本になじむよう、多くの方が永住してはたらかたいと言われる。将来はエンジニアリーダーになりたい。モータースポーツネッツ、トヨベットともに取り組んでいる。エンジニアでもドライバーでもやりがいとして留学も参加するよう取り組んでいる。自己点検大変参考になりました。</p>	
7. 学生の受入れ募集	7-7	<p>根本 最近、障害のある方の割合は2級、1級を目指される方はおられますか。</p> <p>根本 会社でも知的障害、身体でも限定される。重度、精神障害については会社側が十分の対応が出来ないために採用を見送ることになる。今後、そのようなあたりの情報交換もしていただけませんか。</p> <p>現在も採用でLGBT方にお会いすることがありました。採用時、男女で用紙のピンクとブルーなど色を変えていたがそのあたりも同一にするなど見直した。配慮する必要があると考える。</p>	<p>喜多 LGBTが過去おられた。発達障害、学習障害などの事案はあった。障害手帳をもっているわけではないので、本人からの申し出や保護者や高校からの連絡により把握している程度、現在、本人の申し出で3名ほど</p>
8. 教育の内部質保証システム	8-15	<p>後藤 自己点検評価結果を拝見して自社でも同様にできるかと考えた。いすゞでもサービス部から教育部に異動したが、一級自動車整備科の授業も行っている。留学生が14名入ってきて、教育部で研修を担当した。いすゞの車検全国統一の内容を4日間実施したが60名の新入社員のメカニック対象に留学生も含めてコミュニケーションをしたが、1名日本語の通信教育、日本語の解釈ができずすべて不合格となった事例があった。今年に試験の際にアドバイザーを立てている。コミュニケーション力が課題。留学生にどのように物事を伝えておられるのか授業の様子をみさせていただきたい。</p> <p>留学生とのコミュニケーションの手法 日本人でも基本作業、安全作業の研修をしている</p> <p>フィリピンのいすゞの整備学校から戻った指導員を現在は配置している。</p> <p>関西弁講座が楽しかった。</p>	<p>喜多 本校の授業の見学はいつでも結構です。</p> <p>留学生の日本語力について学びに取り組んでいるが、教員も授業するときは標準語で話す必要があった。それができるのか、就職した先、お客様は標準語ではないので、授業も関西弁で行うことにしている。授業中の母国語の禁止としている。学生はミャンマー、スリランカ、ネパール、インドネシア、多くはベトナムから来日している。グループ内でベトナムの学生同士になるとすぐに母国語で話してしまうとスリランカの学生は分からない。必ず授業時間中は日本語で話すよう指導している。母国語は日本に永住したとしても大切な言葉であるが、少しでも日本語を使って会話が上達するよう心がけるよう指導している。</p>
7. 国際交流	7-7	<p>木下 教育部門を立ち上げるにあたり、グループの教育担当となった。弊社でも今後2年後には本日の参画企業様と同様な悩みを持つことになる。昨年からは事業課で中国の方を採用した。基本的にはアテンド業務。来年の春にハーレー系の学校より中国の学生さんの採用を検討している。人材育成をしていく立場で今日のお話はとても参考になった。</p>	

全体	-	矢川 特にありません。	村田 本日も留学生の話が多かった。 昨年の企業連絡懇談会でテーマが留学生にスポットを当てた。擬音などが各国違うなどの話題となった。 本校も協力はしたいと考えている。 留学生の募集も回復しつつある。今後、教育フォローについて前向きに対応出来るよう考えたい。
3. 2021年度のご指摘および2022年度の課題と重点項目について			
評価項目	項目番号	課題と今後の改善	
学生確保について		<p>昨年の嶋委員よりご指摘のあった留学生の確保について、調査を実施した。中にはこのコロナ禍で閉校した日本語学校もあったが、在籍数の多い学校もあったので従来の京都、滋賀、奈良に加え、大阪方面へのアプローチを強化する。 東京にある大学の校長先生からも東京は審査が厳しく学生数が減っている。新潟方面の学校から募集なさっておられる。</p>	
広報		<p>若い日本人に興味を広げる広報活動としてSNSを有効活動し、多くコンテンツを発信、低年齢層についてはイベントを2023年には再開したい。 SNSはインスタグラム、ティックトックの活用発信に力を入れた。スマホやタブレットよりドローンを利用した。 三菱地所様の二条にあるホテルのイベントで本校の協賛している耐久レース車両の展示などの予定もある。KTGグループ様とSRファクトリー様との協力で参加しているレースについても今年度あらたな参加についてご提案いただきました。</p>	
資格対策		<p>国家資格対策について、昨年よりオンライン、オンデマンド教材に力を入れてきた。2020年度生は学力的に厳しい学生が多い学年であった。受験対策の解答、解説を如何に効率的に行うかを検討した。小林よりご紹介させていただきます。 小林 従来は受験対策として過去問を配布、回答は本来の試験を模した回答用紙で実施していた。その後、採点フォローにタイムラグがあった。また、コロナ禍で来校出来ない学生がいるなどの状況もあり、今回はGoogleクラスルームなどのツールを活用し、回答はgoogleフォームを活用して回答状況について教員が即時把握出来るような運用を行った事例のご紹介をした。 学生の間違った回答の分析や解説をより明確に素早く行うことが出来るようになった。学生の理解度に合わせた指導ができた。</p> <p>喜多 コロナ禍で授業への参加が出来ない学生への配慮からさまざまな取り組みに繋がった。試験対策により効果的な指導ができるツールとして今後も活用する。</p>	
学習実績のご紹介		<p>前年度の資格試験の合格率について報告 喜多 一級自動車整備士の試験の12名のうち1名不合格は過年度生であった。 口述試験は現役生11名と既卒者1名が受験し12名合格とした。 二級自動車整備士ガソリンは二輪自動車整備科の学生も受験したため受験人数が多い。 従来、本人の希望に応じてガソリンとジーゼルの受験や指導についてムラがあった。2021年は両方受験を推奨した。二輪自動車整備科の学生の模試の結果は自動車整備科の学生より高かった。</p> <p>2021年度の就職について 進路未決定1名については異業種には農業期間限定採用1名となった。</p>	
学習状況		<p>内部監査・IR戦略室より授業アンケートについて報告 昨年度の授業アンケートについて 学科ごとのGPAの分布や2年生のGPAの分布 GPAと出身高等学校偏差値による集計から分かること 授業アンケートよりフリーワードによる各科目ごとの学生からの意見の傾向 授業アンケートより学科別に見られる傾向について報告</p> <p>喜多 ご報告のとおり法規など上級生が意欲的に取り組めなかった科目や担当教員について授業参観や科目では法律に関わる学びでもあり、シンプルではあるが重要な学びでもあるので下級生から3級法令の学びからしっかりと行う予定としている。</p>	
評価項目	項目番号	ご意見・質問(委員)	回答(事務局)
全体		特になし	

7) 総評	<p>細田 留学生について 工科は留学生のみの学科で多くを輩出しているので、卒業後の調査、卒業生へのアンケートを検討する。 卒業後教育としてのサポートできたらなと思いがある。 留学生への指導になれているのでサポートできる。 個々の教員も職業実践として教育レベルの向上、また、企業様の社員教育なども検討して参りたい。</p>
8) 今後の予定	<p>学校関係者評価委員会は1回のみなのですが、必要に応じて開催します。 今年度の委員会は年一回の実施で今回で終了。ご意見は今後ご連絡いただきたい。(山根)</p>

以上